

習近平政権の 中国

「調和」の次に来るもの

大西康雄 編

【情勢分析レポート No.20】

習近平政権の中国

——「調和」の次に来るもの——

大西康雄 編

アジア経済研究所
IDE-JETRO

目 次

まえがき

巻頭図表

序 章 習近平政権の展望 …………… 大西 康雄 [1]

- はじめに 2
- 第1節 胡錦濤政権の「調和社会」建設 2
- 第2節 「調和」の現段階 4
- 第3節 習近平政権のスタンス 6
- おわりに 9

第1章 習近平のリーダーシップと政権運営 …………… 佐々木 智弘 [13]

- はじめに——三つの亀裂—— 14
- 第1節 第18回党大会の人事分析
——江沢民人脈の多数抜擢と党中央軍事委員会主席の交代—— 15
- 第2節 第18回党大会報告の分析 20
- 第3節 全人代の分析
——習近平の三権掌握と李克強の國務院総理就任—— 23
- 第4節 習近平のリーダーシップ 29
- 第5節 課題への対応と展望 31
- おわりに 34

第2章 習近平政権の経済運営と改革の課題 …………… 大西 康雄 [39]

- はじめに 40
- 第1節 転機の中国経済 40
- 第2節 世界銀行の処方箋と改革論争 47
- 第3節 党大会、中央経済工作会議、全人代 51
- 第4節 日中経済関係の変質と今後 57
- おわりに 63

第3章 政権移行期における中国外交

——「平和的發展」路線の行方——……………松本 はる香 [67]

はじめに 68

第1節 中国の「平和的發展」路線の軌跡 69

第2節 中国の外交が強硬路線へ傾いている五つの要因 71

第3節 尖閣諸島問題をめぐる日中関係の悪化と反日デモの構図 75

おわりに 79

第4章 軍権の掌握めざす習近平の戦略と課題……………阿部 純一 [83]

はじめに 84

第1節 第18期中央軍事委員会人事 84

第2節 第18回党大会報告にみる軍近代化路線と戦略 92

第3節 習近平のリーダーシップと軍の掌握

——「文民統制」の見地から—— 96

第4節 人民解放軍の動態

——海軍の動向と軍近代化のめざす戦略—— 101

第5節 増大する国防費と「中国海警局」の設置 106

おわりに 108

第5章 「国進民退」と習近平政権の課題……………渡邊 真理子 [113]

はじめに 114

第1節 「国有経済の堅持」と「民間資本への市場開放」の対立 115

第2節 経済の論理——「国進民退」と「旺盛な参入」—— 117

第3節 政治の論理——「社会主義市場経済」の決定とその後—— 124

おわりに——習近平体制のスタンスと展望—— 133

第6章 社会保障制度の新たな課題

——国民皆保険体制に内在する格差への対応——……………澤田 ゆかり [137]

はじめに 138

第1節 胡政権の実績 139

第2節 習近平政権が引き継ぐ課題 146

おわりに 157

執筆者略歴…………… [162]

〔執筆者略歴〕

大西 康雄（おおにし やすお）〔序章、第2章〕

1977年早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。同年アジア経済研究所入所。1986年から1988年まで在中国日本大使館専門調査員。1997年から2000年まで中国社会科学院工業経済研究所客員研究員。2008年から2011年まで日本貿易振興機構上海センター所長。現在、同アジア経済研究所新領域研究センター・上席主任調査研究員。

主著に『中国・ASEAN 経済関係の新展開——相互投資と FTA の時代へ——』（編著、アジア経済研究所、2006年）、『東アジア物流新時代——グローバル化への対応と課題——』（共編著、アジア経済研究所、2007年）、『中国 調和社会への模索——胡錦濤政権二期目の課題——』（編著、アジア経済研究所、2008年）。

佐々木 智弘（ささき のりひろ）〔第1章〕

1994年慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程修了。同年アジア経済研究所入所。2010年から2012年まで復旦大学国際関係と公共事務学院客員研究員、中国社会科学院政治学研究所客員研究員。現在、日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター・東アジア研究グループ長代理。

主著に「1999年の中国電信再編案策定の政治過程——國務院指導者と情報産業部の役割を中心に——」（『アジア経済』第51巻第3号、2010年）、「党国体制とマクロ経済運営——2008年金融危機前後を事例として——」（加茂具樹・小嶋華津子・星野昌裕・武内宏樹編『党国体制の現在——変容する社会と中国共産党の適応——』慶應義塾大学出版会、2012年）。

松本 はる香（まつもと はるか）〔第3章〕

2005年米国ジョージタウン大学歴史学部外交史専攻博士課程単位取得。日本国際問題研究所研究員等を経て、2005年アジア経済研究所入所。2010年に台湾中央研究院、2011年に北京大学国際関係学院で客員研究員として2年間の在外研究。現在、アジア経済研究所地域研究センター・副主任研究員。

主著に、「冷戦後における中国の多国間外交の展開」（佐々木智弘編『現代中国の政治的安定』アジア経済研究所、2009年）、「海峡兩岸対話の再開と平和協定の将来像——攻勢を強める中国と選択肢の狭まる台湾——」（『中国21』、東方書店、2012年）。

阿部 純一（あべ じゅんいち）〔第4章〕

1978年上智大学大学院博士前期課程修了。米シカゴ大学留学を経て、1982年一般財団法人霞山会入職。現在、霞山会理事兼研究主幹。

主著に『中国——21世紀への課題——』（編著、人と文化社、1997年）、『中国と東アジアの安全保障』（明德出版社、2006年）、『中国軍の本当の実力』（ビジネス社、2006年）、『中

国をめぐる安全保障』（共編著，ミネルヴァ書房，2007年），『アメリカにとって同盟とはなにか』（共著，中央公論新社，2013年）。

渡邊 真理子（わたなべ まりこ） [第5章]

1991年東京大学経済学部卒業。同年アジア経済研究所入所。1999年香港大学修士号，2011年東京大学博士号（経済学）を取得。1996年から1998年まで海外派遣員（香港），2006年から2009年まで海外調査員（北京）。2009年から日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター・東アジア研究グループ長。

主著に『中国の不良債権問題』（編著，アジア経済研究所，1999年），『企業の成長と金融制度』（共著，名古屋大学出版会，2006年），「企業統治制度と企業行動——支配株主としての政府の存在——」（深尾光洋編『中国経済のマクロ分析』，日本経済新聞出版社，2006年）。

澤田 ゆかり（さわだ ゆかり） [第6章]

1986年東京外国語大学地域研究科卒業。同年アジア経済研究所入所。1989年から1991年まで香港大学客員研究員。現在東京外国語大学総合国際学研究院教授。

主著に『現代中国の社会変容と国際関係』（共著，汲古書院，2008年），『高まる生活リスク——社会保障と医療——』（共著，岩波書店，2010年），『個人加盟ユニオンと労働NPO』（共著，ミネルヴァ書房，2012年）。

表紙の写真

(背景) 上海市「バンド」付近のビル群 [写真: Jose Fuste Raga/アフロ]
第18期全国人民代表大会での習近平と李克強 [写真: ロイター/アフロ]

[情勢分析レポート No.20]

習近平政権の中国 ――「調和」の次に来るもの ――

2013年 8 月 9 日発行

定価 [本体1500円＋税]

編 者 大西 康雄

発行所 アジア経済研究所

独立行政法人日本貿易振興機構

千葉県千葉市美浜区若葉 3 丁目 2 番 2 〒261-8545

研究支援部 電話 043-299-9735 (販売)

FAX 043-299-9736 (販売)

E-mail: syuppan@ide.go.jp

<http://www.ide.go.jp>

印刷所 岩橋印刷株式会社

表紙デザイン 岩橋印刷株式会社

©独立行政法人日本貿易振興機構 アジア経済研究所 2013
落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

無断転載を禁ず
ISBN978-4-258-30019-8

ISBN978-4-258-30019-8
C3331 ¥1500E



9784258300198

定価(本体1,500円+税)



1923331015002



習近平政権の中国

「調和」の次に来るもの

大西康雄 編